

先の大戦から70年の月日が経ちました。この間、日本は戦争を
ほうき
放棄し、平和国家としての道を歩んできました。私たちは平和を
きょうじゅ
享受してきましたが、一方で戦争の悲惨な記憶は風化しつつありま
す。再び過ちを繰り返さないためにも、戦後生まれの、戦争を知ら
ない世代の平和意識の低下・希薄化が懸念されるどころです。

この度、文集を作成するに当たり、戦争体験者の高齢化が危惧さ
れる中、22名もの方から手記をお寄せいただきました。中には自
分たちこそが、戦争を語れる最後の世代であるという使命感に駆ら
れて、初めて他人に辛い体験を伝えるという方もいらっしゃいます。

平和への願いが込められた、この貴重な体験談が、読んだ人の心
を動かし、戦争の悲惨さ、平和の大切さについて考えるきっかけと
なれば幸いです。

平成27年6月

栃木市長 鈴木 俊美